

事務事業評価

平成25年度

		担当グループ		有明支所						
基本事項	事務事業名	有明福祉センター指定管理業務				整理番号	1901			
	根拠法令等				実施を義務付ける規定		<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし			
	関連する市勢振興計画の基本計画	章 第8章 健康で生きがいある生活を支える	予算科目	3款	1項	9目	<input checked="" type="radio"/> 継続 <input type="radio"/> 新規			
	節 第3節 高齢者福祉の充実	事業区分	市民サービス事業							
事業の目的・実施状況等	事業の背景 (課題、市民の要望等)	有明福祉センターの運営を指定管理者に移管し、継続して適正な運営を行う。				計画期間	始期 平成 24年から 終期 平成 年まで			
	事業の対象 (誰に・何に対して) 目的的 (どのような状態にしたいのか)	より費用対効果の高い事業をめざし、指定管理料の縮減に努める。 ・市の負担軽減、指定管理料の軽減、サービス向上利便を図る。								
	目的達成のための具体的手段・方法	施設利用者を増やし、利用料の増をめざす。そのために、施設のことをより多くの人に周知する広報活動を実施し、利用者に気持ちよく施設を利用してもらうため、職員の接客マナーの向上をめざす。								
	成果指標 (目的達成度を図るものさし)	名 称 等 (内 容)				単位	23年度	24年度	25年度	
		①指定管理料の軽減				目標				
		②サービスの向上 アンケート結果の下記要望について改善を行った ・お風呂の横のトイレに手拭きがほしい。 (ペーパータオルを設置済) ・女性浴室室内に個人浴室用具を一時的の置いておく棚が欲しい。 (協議検討中) ・足湯に垢がついているのが気になる。 (毎日清掃を行っている)				実績達成率	%			23,578 25,372
		①自主事業の活動内容 ・季節湯(ゆず湯・菖蒲湯・薬草湯)の実施(単位:日)				目標			25	33
		②自主事業の活動内容 ・ヘルストロン(電位治療機)の設置(単位:台)				実績			25	33
	活動指標 (目的達成のために行った活動実績)	①自主事業の活動内容 ・季節湯(ゆず湯・菖蒲湯・薬草湯)の実施(単位:日)				目標		2	2	
		②自主事業の活動内容 ・ヘルストロン(電位治療機)の設置(単位:台)				実績		2	2	
年度		21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度			
区分		実績値	実績値	実績値	実績値	予算	計画			
①直接事業費(千円)					23,578	25,372				
事業費等の推移	国 県 支 出 金									
	地 方 債									
	そ の 他									
	一 般 財 源	0	0	0	23,578	25,372	0			
②従事職員給与費 $b_1 \times b_2$	0	0	0	0	0	0				
従事職員数(人) b_1	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00				
職員平均人件費 b_2	7,162	7,168	7,236	7,277	7,213					
事 業 費 合 計 ① + ②	0	0	0	23,578	25,372	0				

【1次評価】

事務事業の評価項目と評価の視点		評価内容（判断理由、課題等）	
必要性	①社会環境の変化や市民ニーズに照らして、事業の必要性が薄れていないか	A=薄れていない B=一部薄れている C=薄れている 今後、さらなる高齢化社会となるため薄れていない。	判定
	②事業を民間(NPO、市民、ボランティア等)に実施させることはできないか	A=市以外での実施は困難 B=一部民間での実施可能 C=民間での実施可能 現在、指定管理者が運営している。	C
	③対象者は事業目的に見合っているか。また、事業を取り巻く時代変化や制度改正など、環境の変化に適応しているか	A=概ね適切 B=改善の余地あり C=見直しが必要 おおむね適切。	A
有効性	④成果指標の達成に十分寄与する手法がとられており、結果として目的が達成されているか (成果指標と連動させること A=達成 B=概ね達成 C=未達成)	A=達成している B=一部達成している C=あまり達成していない 自主事業を実施している。	B
	⑤事業効果をさらにあげる余地はないか	A=効果向上の余地はない B=一部検討の余地がある C=検討の余地がある さらなる自主事業の実施。	B
効率性	⑥事業実施により、費用や業務量に見合った活動結果が得られているか (活動指標と連動させること A=達成 B=一部未達成 C=未達成)	A=得られている B=一部得られている C=見直しが必要 使用料は従前と変わらなかった。	B
	⑦必要な活動結果がより少ない費用や業務量で得られる手法に代えられないか	A=現行以上の手法はない B=一部検討の余地がある C=検討の余地がある 改善できる部分はある。	B
	⑧組織間の連携や役割分担に改善の余地はないか	A=改善の余地はない B=一部改善の余地がある C=改善の余地がある 改善の余地はある。	B
公平性	⑨事業の対象者全員に偏りなくサービスが提供されているか 全体コストから見て受益者の負担割合は適切か 使用料等の見直しの余地はないか	A=概ね適切 B=検討・改善の余地あり C=見直しが必要 福祉の施設であるため、使用料が抑えられている。	B
⑩市民参加、市民協働が配慮されているか、市民参加を拡大する余地や、新たに取り組む余地がないか A=概ね適切・現状維持 B=検討・改善の余地あり C=見直しが必要			
判定評点平均（3点満点） A=3、B=2、C=1、「-」=0として換算			2.11

◎ 総合自己評価（所管部署）	
評価結果	<input type="radio"/> A 継続実施(手段の見直しは行わない) <input type="radio"/> B 改善・見直しを行う <input type="radio"/> B1 事業規模の拡充 <input type="radio"/> B2 事業規模の縮小 <input checked="" type="radio"/> B3 事業内容の改善・見直し <input type="radio"/> B4 その他の見直し <input type="radio"/> C 休止(隔年実施などへの変更) <input type="radio"/> D 廃止(終期の設定等を含む)
今後の課題及び改善策、見直しの状況	(実施上の課題等) 駐車場の不足。施設の老朽化に伴う修繕費の増大。福祉施設であるため使用料がアップできない。 使用者増につながる、自主事業の展開
·総合評価で、「見直し・改善」を行うとした場合、見直しを行うまでの今後の課題や事務事業の改善・見直しを行うことにより予想される効果も併せて記載ください。 ·本年度の事業を実施するにあたり、事業内容等の見直し(改革・改善、終期の設定など)を行っている場合は、その内容についても記載ください。	

【2次評価】

総合判定	B3見直しのうえで実施 ⇒ 事業内容の改善
備考	担当課による1次評価結果では、3点満点中2.1点と評価が低いことから、見直すべき点が多いと思われる。特に効率性の観点では全てB評価となっており、早急に改善すべきである。

【3次評価】

総合判定	
備考	

評価結果を踏まえた次年度予算への反映状況			
① <input type="checkbox"/> 事業費縮減(事業の見直し)	③ <input type="checkbox"/> 成果向上に向けた事業費増加	↓ 予算措置額の増減	
② <input type="checkbox"/> 民間委託等によるコストの縮減	④ <input checked="" type="checkbox"/> 事務の効率化による現状維持(事業内容の拡充)		1,100 (千円)